

6 林 業

項 目	作 業 内 容
(1) 移植	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○移植 ○剪定 <p>今年の夏(6～8月)の日本の平均気温偏差は+1.76℃となり、1898年の統計開始以降で最も高かった。日照時間がやや平年比を下回った反面、降水量がやや多くなったことにより、緑化木の生育に適した環境となった。</p> <p>10～11月は気温の低下と共に樹木の樹液の移動が緩やかになるため、暖地性常緑樹以外の樹木については移植の適期となる。また、来春に移植を考えている木では、根回しの適期となる。</p> <p>ア 根回し</p> <p>※移植を予定している木の根の途中を人為的に傷つけ、その傷口付近から新しい細根を出させる作業</p> <p>移植する樹木のうち、幹の直径が5cm以上のもの及び植付けて長年経っているものについては、移植実施の半年から1年前に根回しを実施しておく。根元径の5倍の円状に樹木周辺を掘り、大部分の根を切り、一部は皮を剥いておく。これにより、急激な樹勢の減退を防ぎながら、新根の発生が促進され、活着がよくなる。</p> <p>イ 掘上げ</p> <p>※樹木を植え替える時、根を掘り下げる。土をつけたまま掘取った部分を「根針」という。</p> <p>掘上げは、根鉢を付けない場合、広さは幹の直径の10倍程度、深さは広さの2分の1程度、根鉢を付ける場合、広さは幹の直径の5～6倍程度、深さは広さの3分の2程度に掘り上げる。</p> <p>移植時には根を切るなので、樹木の水分の吸水能力が低下するが、葉からの蒸散は通常時と同様になされるため、剪定により葉の数を減少させ、バランスをとる。</p>

項 目	作 業 内 容
<p>(2) 剪定</p>	<p>ウ 植え付け</p> <p>径、深さとも根鉢の1.5倍以上の植え穴（写真1）を掘り、元肥を施す。植え穴に樹木を入れるが、この時、根張りが見えるほど浅く植えると、地面付近にしっかりと根を張る。植え穴の3分の2程度土を入れ、水をお汁粉状になるまでたっぷり注ぐ（写真2）。この際、細い棒でつつく等し、細根の間まで十分に土が入るようにする。ただし、ツツジ類など樹種によっては水のかわりに土を入れる土ぎめを実施するものもある。</p> <p>その後、上部まで土を入れ、軽く踏みつける。周囲の土砂を盛り上げ、水鉢を作る。乾燥と霜による凍結を防ぐため、わら等で周辺の地面を覆う（マルチング）。支柱を建て（写真3）、固定した後、十分にかん水する。</p> <p>エ 10～11月に移植すべき樹種 ボタン、ボケ等</p> <p>オ 10～11月に移植できる樹種 ウバメガシ、カイツカイブキ、クロガネモチ、コデマリ、オオデマリ、ゲッケイジュ、ニシキギ等</p>
	<p>10月は、一般的に常緑広葉樹や針葉樹の剪定の適期であり、最後の仕上げの剪定として、徒長している枝のみを切るようにする。各種生け垣の刈込みは10月中に年内最終の刈込みを行う。</p> <p>ただし、コデマリやユキヤナギ等、10月に花芽が分化するものについては、実施しない。</p> <p>また、落葉樹については、冬期が適期のため、11月以降の落葉後に剪定する。</p>



写真1 植え穴



写真2 水ぎめ



写真3 支柱設置

(作成 林業研究センター)